

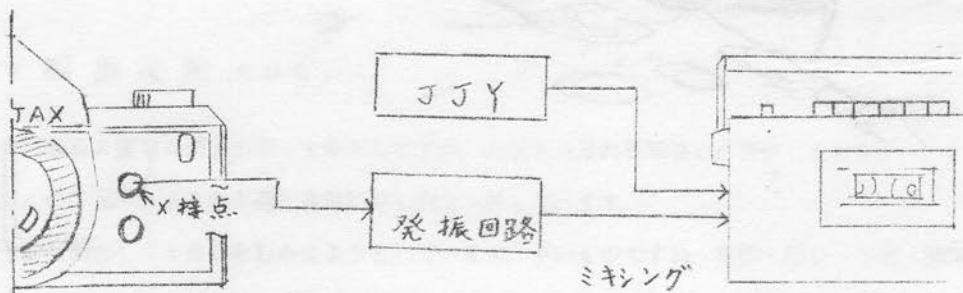
木星食前夜

木星食企画委員

来るる、昭和58年4月30日の早朝(AM 04:20頃)に、木星食が起ります。しかも、今回の食は、北限界線が長崎、熊本、大分と九州の北側を通っていて、所によってはいろいろ面白い現象が見られます。というのは、木星がかなりの面積を持っている為に、月の縁に接触したり半分だけ隠れる部分食となったりするのです。前者では、潜入と出現は同時刻となり、後者では、潜入と出現の2回、もし完全に隠れてしまう様な場所だと、第一接触から第四接触までの計四回の時刻測定が、可能となります。又、予報では、大赤班もほぼ中央に来ているので、大赤班の食などという光影も見れそうですし、ガリレオ衛星が木星の西側にかたまっていて、本体に先んじて食され、それも九州の北と南で、衛星の食される順序が違ってくる(北部: II→III→IV→I, 南部: IV→II→III→Iの順に潜入)という、かなり複雑な現象となります。

この木星食に際しKCAOでは、時刻の測定と写真撮影という2面に渡ってとりくむ事になりました。31cm, 16cm反赤(永井先生所持のアスコ製)は写真撮影に、D型、ビクセン7cm, カートン6cm, ケンコー6cm,(天文台所持)とタカハシP2型2台(会員の方の所持)は、眼視観測とお客様が来られた時の観望用とに使用されます。又、時刻測定用にストップウォッチ(アナログ、デジタル式)数個が、各方面より狩集められます。

面白いのは、写真撮影の時の時刻を記録する方法で、下図の様な発振回路をカメラのX接点を通してテープレコーダーに接ぎ、JJYとミキシングするというものです。これによって0.5秒くらいの精度でシャッターの切れる時刻を決定しようというものです。眼視の方でもJJYをバックに流しながらテープに会場の模様をモニターします。あとは、当日天気が良いことを祈るだけです。



(1) 天体写真コンテストは大成功！？

万年非常勤学生

星屑104号での予定通り、去る2月20日、博物館にて例会+天体写真・自作品コンテストが行われた。その時の様子を筆者が思い出す限り詳細（？）に報告する。

私が博物館に行った時には（例会開始予定時刻の少し前だった）まだ数名しか来ておらず、このような状態で写真展など行えるのだろうかと思ったが、ボケーとしていても仕方がないので、来ている人達だけで準備をすることになった。写真を台紙にはったり、データを書いたりするのであるが、どの作品もなかなかの力作で、自分が持つて来た写真と見較べて自分の未熟さを思い知った。そうこうしている内に徐々に人が増えてにぎやかになって来た。その中にまぎれて山本重信氏が重そうに佇やら運んで来た。良く見ると、な、なんと高橋製6.5cmP型+自作短焦点反射の望遠鏡一式。今回のコンテストでは天体写真だけではなく、自作品もコンテストの対象となっていたわけだが、この望遠鏡が今回一番大きな出品作品となった。また、成松氏は背広をピシッと着込んで登場普段着の姿しか見たことのなかった私達は成松氏が社会人であることを思い出した。

写真がほぼ出そろって例会が始ったのは2時半頃だったと思う。結局、参加者は約25名、出品された天体写真の数は約30枚であった。その中で白黒ネガからフィルターを使ってカラー印画紙にプリントをして実際の色に近づけようとした山本遵氏の月の写真や、熊大出品のアンシャープマスキング法によるM42など、アイデアをこらした物が目を引いた。また、昨年12月の月食の写真が多かった。

月食のスライド（宮本氏の作品と艶島氏の作品）、8ミリ（橋口君の作品で努力賞ものだが前半は露出不足で残念）の投影を見た後、コンテストの投票があった。集計結果が出るまでの間、各写真の撮影者に、それぞれの写真の説明を簡単にしてもらった。

そして投票結果の発表はコンテストの責任者である矢住君が行った。1位は「質」よりも「量」で勝負した下郡君、2位は素晴らしい月食の写真を出品した宮本氏。3位は熊大のアンシャープマスキング法によるM42であった。また、自作品の部門では、自作アストロカメラの艶島氏と、10cm反射の盤ガラスで作った虫めがねを出品した永井氏が同点であったが、艶島氏は写真の部門でも高得点を得ていたという変な（？）利用で永井氏が1位になった。

その後、後片付けをしてプラネタリウムを見学して解散となった。みなさん、御苦労様でした！

いくつもの星の下で（I）

「雨あがりの夜空に」

ちびろく

突然ですが、今回より短期分散連載で、気象に関する話を書いて行こうと思います。何故このような地獄に陥ったのか思い起こせば今年の正月2日、某K氏、N氏他数名の人たちと飲みに行き、酒に酔った勢いで某中川氏に原稿を書くと約束したようです。酒はこわい……。

と言う訳で始まりました「いくつもの星の下で」。今回は、これから連載する内容について書くつもりです。予定していることとしては、天気予報に関する話；気象衛星「ひまわり」について；他には特に考えてはいませんが、皆さんの質問、希望等ありましたら、僕のほうまで御一報を……わからない時は、調べてでもお答えするつもりです。

さて、初回から少々脱線しますが、皆さんはUFOはどの役所が扱うか知っていますか？「気象庁」と答える人が多いのですが、じつは関係は無いのですヨ。（実際、UFOに関する問い合わせが多いのです。）この話は、気象大学校の哲学の教授である増原良彦先生が授業中に話されたことなのですが、面白いのでここに抜粋します。…単に字数合わせという話もあるが…

気象庁の業務は、『気象業務法』という偉大なる法律に定められているのですが、その中にUFOに関係がありそうなものを拾うと、「気象、地象、地動及び水象の観測並びにその成果の収集及び発表」、「気象、地象及び水象に関する情報の収集及び発表」とあります。もちろん予報についてもありますが、まさかUFOの予報は出来ないのでバス！それで、UFOが気象現象とすれば、気象庁は『気象業務法』に基づいて観測、発表をしなければならないのです。しかし、UFOは気象現象ではないのです。『気象業務法』には、「この法律において“気象”とは、大気（電離層を除く）の諸現象をいう」とあるからです。UFOが明らかに大気の現象として認められない限り、気象庁は関係ないのです。もし、UFOが大気の現象として判明したら、UFOはUFOでなくなるのです。（なんとすばらしい論理だろう！）それじゃどこが扱うのか……僕も知りません。もしかして、あの池田氏のいる空自かも……外務省かもね。ついでの事ですが、天文も気象庁では扱いかねます。

注：ちびろく……1960年10月30日生、男、独身、現在気象庁福岡航空測候所勤務

注：タイトルはすべて歌の題名より取ってます。歌手をあてて下さい。日本人だけです。

肉丸現わる

の土星の本日

やかましくアセ脱帽の星

一九七六年六月

原口 博

メガネを外せば肉丸そっくり、という壺渓(こけい)の肉丸こと、原口博が自己紹介を書かせてもらうことになりました。昨年の暮に入会したばかりで、名前も顔も知られていないと思います。

月並な自己紹介ですが、昭和37年6月26日、八代で生れ、人並に成長はしたもの、縦よりも横の方により成長してしまう。1976年、天文ガイド4月号を本屋でなにげなく、ほんとになにげなく見たことにより、この世界へのめり込むはめとなる。中学生の頃、人並だった頃も高校に入って星ばかり見るようになり、ほとんど勉強せんかったもんだから現在壺渓塾(予備校)2回生。今年の春には大学生になる予定です。

肉丸そっくりではありますが、割とスポーツは得意でガキの頃からテニス(硬式)、中学の時からサッカーをずっとやっていました。何でもこなしますがハンドボールだけは苦手で、足と同様に指もなぜかコンパクト設計で、ボールを握るのに苦労します。性格はと言えば非常に明るいのですが、人見知りが激しいので、このあいだの例会の時は猫をかぶっていました。

僕の天文に関する考え方で一番大事にすることの一つは、趣味であるからこそ常に楽しくという事です。いつもワイワイ、ガヤガヤと星を見るのが好きです。写真を撮るのも好きなのですが、星野を撮るには時間がかかるし思い通りになかなか写ってくれないので月や惑星ばかり撮ってきました。寝っころがって双眼鏡で星夜を流すのは最高ですね。高校の頃、部の観測会はいつも阿蘇の大観峰に行っていました。ここの星はほんとにきれいでしたよ。全く光害はないし、アスファルトの駐車場はあるし、周りは牧草地で観測地はいくらでもあったし、文句のつけようがなくよかったです。今は駐車場の横に売店なんか出来ちまって、他にも何やら建てられて観測地としてはもはや向きの様です。

これから先の予定では、まず10センチの鏡を磨き、徐々に大きくして行って将来は30センチ級の鏡が磨けたらなーと思っています。他の趣味としてオーディオや、写真も時間の許す限りやっていきたいと思っています。

日本の星より

星の和名を知っていますか？

星のストレンジャー

な
今日は、いつの間にやら、暖かくなって星を観るのも~~樂季節~~となりました。何かと雨が多く、わすれがちな春の空ですが、夜半には夏の星座も昇って来ますし、あのいやな蚊が出て来る前にうんと見ておきたいものです。と、いうわけでもないのですが、春から夏の星の和名について、野尻抱影先生の「日本の星」という本の中からすこし紹介したいと思います。さてあなたの知っている名前がいくつぐらいでてくるでしょうか？

まず春の代表的な星座、しし座とおとめ座については、あまり名前が付いてなくて、スピカの「しんじゅぼし」、ししの大がまの「といかけぼし」くらいです。この辺は、あまり日本に合うよう形が見つけ出しにくいようです。でも、といかけ星とは良く付けたと思いませんか。西洋の三日月の様な鑑は日本には無いので、雨どいをかける金具“といかけ”とは、いかにも日本的ですね。

からす座には、「よつぼし」、「だいがらぼし」があります。だいがらとは、中国地方でいう踏みウスの方言で、ダイカラウス（台礁）の略です。又、「ホカケボシ」、「ムジナノカワハリ」など生活に密着した名前が多い様です。

うしかい座のアクトゥルスには、「ムギボシ」、「ムギウレボシ」が有名ですが、他に「カジガイボシ」（意味不明、豊作との結びつきが濃い）、「ウォジマボシ」、「グヒンボシ」（狗賓星）、「ノトネラミ」（能登脱み）など地方色の濃い名前が多く付いています。

夏の初めの星、かんむり座には「くるまぼし」、「かまとぼし」、「くびかさりぼし」、地方の方言では「へつい星」「ハズメの星」（蹄の星）、「キンチャコ星」（巾着星）、「カゴ星」、「ハンカチ星」、「カラカサ星」、「ニジ星」、「イドバタ星」など、形そのままの名が多いです。

さそり座には、「ウォツリボシ」、「タイツリボシ」、「ヤナギボシ」などがあり、アンタレス「あかぼし」をはさむ2星6とてで作るへ形を、「カゴカツギボシ」、「アキンドボシ」（商人星）、「オヤニナイボシ」、などと言います。又、このかごの中に入っている物の違いによって色々なバリエーションがあり、「あわにないぼし」（粟荷い星）、「さばうりぼし」（鮒壳星）などといい、このへ形がへたって見える年は豊年で、つんとつっぱって見える年は、不作だといわれています。

まだまだいっぱいあるのですが、貢の都合で今回はこの辺で、機会があればまた合いましょう。

○ 行事予定

MAT

- 4月29日 講演会（講師 東京天文台 富田引一先生）
- 4月30日 木星食観測会（天文台及び阿蘇で）
- 5月 2日 企画委員会（天文台にて PM 7:30 より）
- 5月14日 運営委員会（天文台にて）
- 5月22日 県民天文台総会（博物館にて PM 1:00 より）

○ 木星食観測会について

天文台での観測会に参加希望の方は AM 01:00頃までに来られて、機材の設置、調整分担を手伝ってもらうのが望ましいです。観望用の望遠鏡も用意しております。

阿蘇での観測会は、博物館事務局（TEL 0963-24-3500）もしくは「天文ガイド」編集部までどうぞ。

どちらも参加無料！

○ 29日の講演会について

講演会（講師：富田引一先生）の後に、木星食のリハーサルを行ないます。

入場無料ですので、お誘い合せの上お越し下さい。

場所： 熊本市立博物館

時間： 午後1:00より

○ 5月22日の総会について

58年度総会を、5月22日 博物館で PM 1:00 より開きます。

当日の議題は、57年度会計報告、会計監査報告、57年度事行報告、58年度事行計画発表、KCAO会則の制定などです。

年1度の総会ですので万隙縫合せの上多数御参加下さい。

○ ちょっとしたにゅうす

フォーミングガス友の会の昇格（！？）して星野写真友の会となりました。

黒松天文台（102号参照）に続いて、甲佐の成松さんが、自宅に天文台を完成、名付けて“成松天文台”。

天文台日誌より

★1／1 新年あけまして、おめでとうございます。おだやかな暖かい年明けの一日、いいですね。KCAO、今年も頑張りましょう。

★1／10 COSMOS 1402の観測 奇跡的に成功！

直前に雲が切れ、星が見え始める。意外に高い空を、アッ！という間に雲に隠れた。テープの再生で、18秒間見えていたことがわかった。下郡君、小林Mさんの黑白フィルムに5秒、4秒露出、5分現像でドンピシャリ！写っていた。（ドット歓声）

★1／11 COSMOS 1402は、予測よりやや東よりにコースがズレ、高度は、200Km

（朝） ちょっと。その為昨日とは異なり、ほぼ真西から地球の影を出る。光度は1等級、何度か変光を繰返す。NHK東京から2名来ていた人達も撮影に成功した。佐藤

★1／11 コスモス観測中のテープを聞く、小林J氏のテープが一番よく入っている。写真は、

（夜） 薮島氏が撮影に成功。スピカ、土星と変光しているコスモスの様子がよくわかる。

前坂

★1／15 福岡天文研究会の方2名。7～8：00まで晴れたので31cmで見てもらった。いろいろと福岡や星の話をして、8：50に帰られた。福天の会報を置いていかれた

山本

★2／4 中学生、物知りの為、こちらの知識上昇。例）熊本より見える1等星はいくつか？

答）全天で21個のうち16個

工藤

☆☆編集後記☆☆☆

☆M A T☆

今回担当2度目の当番が回って來たんですが、出足から遅れ原稿集めに苦労しました。

皆さんの手元にとどくのが遅れ非常に申し訳なく思っています。

やがて開台して1年目をむかえようとしています。早いものですね。梅雨、総会、日食、夏休み合宿、そして、又お客様の多い時期がやって来ます。皆さんもっと星を観ましょう！